

The Y's men's Club of *Kyoto Prince*

THE SERVICE CLUB TO THE YMCA AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y's MEN'S CLUB

SANJOU YANAGINO BANBA KADO NAKAGYOU-KU KYOTO JAPAN, GIP 604-8083
URL <http://www.prince-ys.com>

TEL 075-231-4388

強調月間
BF

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANES EVERY RIGHT"



Bulletin
2008.10

2008年10月1日号発行
第24巻 4号
通巻274号

会長主題 (CP)

主題

スローガン

廣井武司

「友情の輪を広げよう」

和 ・ 話 ・ 輪

WA WA WA

だから、今それをやり遂げなさい。進んで実行しようと思ったとおりに、自分が持っているものでやり遂げることです。進んで行く気持があれば、持たないものではなく、持っているものに応じて、神に受け入れられるのです。
新約聖書 コリントの信徒への手紙Ⅱ 8章11～12節

国際会長 (IP)

主題

スローガン

アジア会長 (AP)

主題

スローガン

西日本区理事 (RD)

主題

京都部部长

主題

V. S. Bashir (India)

"Be the light of Hope" 「希望の灯となろう」

"Share with a smile" 「分かち合いは微笑をもって」

Rita. Hettiarachchi (Sri Lanka)

"Be the light of Hope" 「希望の灯となろう」

"Working together to serve better"

「より良き奉仕のためにともに働こう」

佐藤典子 (熊本ジェーンズ)

"思いやりを持ってワイズライフを!"

"Enjoy Y's life with Consideration!!"

—わかち合いは微笑をもって—

「Share with a smile」

藤田寿男 (京都ウイング)

"意識を持って活動に参画しよう"

—555実現に向けて—



にこにこ
9月第一例会 6,000円
9月第二例会 0円
累計 15,000円



ファンド
スイカ 24,200円
0円
累計 29,328円



BFポイント
切手 0p
現金 0p
累計 0p



9月第一例会 18名
9月第二例会 17名
メーキャップ 0名
在籍者数 22名
出席率 86.4%

We are family We are family We are family We are family

誇りを持って一步前進 —BF強調月間に寄せて—

会長 廣井武司



京都部会も無事終わり、ワイズ活動の中では最も忙しいとされる秋になりました。部会ではプリンスのメンバーの大声援をうけて、無事役目を果たすことができたことを心より感謝いたします。

今年の部会のテーマもまとめればワイズの輪を拡げようということと理解することができました。当日プリンスクラブではメンバー候補の参加もあり、今期メンバー増強にかけるメンバーの力強い行動に大いに勇気をもたらした一日でした。着実にプリンスの輪が広がっている気配を感じます。この気運を絶やさずにこの一年を和をもって楽しく歩みたいと願っています。

前期ほどの多さはありませんが、今期も他クラブの周年行事への案内、YMCAプログラムのご案内、応援依頼がきています。どうかプリンスクラブから一歩外へ出て、それらのプログラムに参加してみませんか。そこには、今までにはない新たな出会いや刺激がありワイズライフの幅もずっと大きく広がってくることでしょう。

YMCAのプログラムにもプリンスのメンバーが中心となって展開している事業があります。私たちは仲間として積極的に関わって彼らをサポートしましょう。自分が逆にその立場にあるとき、まわりのみんなの、参加という後押しがどれだけ励みになるか考えてほしいのです。

10月、西日本区強調月間はBFとなっています。ブラザーフッド資金として国際役員やBF代表が公式行事に参加する旅費などの資金源として全ワイズメンの参加、協力によって集められた資金で使われる切手の回収、切手市場での換金などの活動が、今も継続されています。

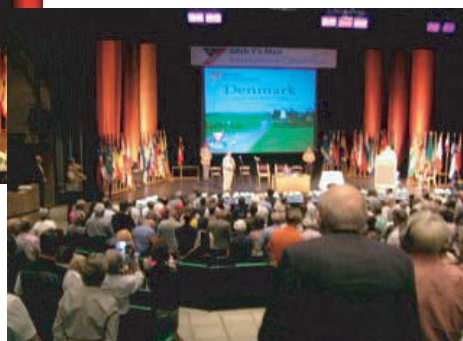
くわしくはロースターやワイズ必携に記載されていますので、今一度その目的と意義を確認してみてください。切手の整理を通してメンバーの苦労もありませんが、貴重なメンバーシップを得た事業でもありました。

我がクラブでは過去3名のBF代表を輩出しています。全額補助代表には渡邊ワイズ、西堀ワイズ、一部補助代表には岡西ワイズです。一つのクラブから3名の代表を出していることはクラブの誇りでもあります。このことはクラブが今まで適正に運営され、かつ書類関係の提出およびBF献金が的確になされていることが基礎になっています。

BF代表としての資格。ブラスその在籍クラブの状態が適正と判断されてクラブ会長の推薦を持って代表選考にできることができます。

クラブの状況が良くないとこれらの機会も失うわけです。

今期、プリンスクラブの輪を拡げようと願うことには、より確実な存在感をみんなに共有したいと思うからです。和・話・輪、プリンスの未来をみんな語りましょう。





「ワイズの真髄に迫る」

西村 博

西川寿一 兄(京都パレス)



三人の元日本区理事をゲストスピーカーに迎えて、ともにワイズダムについて考えようとの趣旨の例会。

まずその前に、先日開催された青白キャンパスのお礼にみえた京都ウイングクラブ亀井ワイズからご挨拶いただき、天候に恵まれ全てのプログラムを消化、元気な子供たちの姿に心とむ一日となったとのこと、参加メンバーに感謝されていた。初めに、ワイズ暦40年、パレスクラブ在籍38年の西川ワイズからお話をいただいた。

自分にとってワイズがなければ感動もないつまらない人生ではなかったかとさえ思える。



奈良昭彦 兄(京都クラブ)

ワイズ活動の中で個人攻撃をされたりするとメネットから在籍の意味なしと指摘されたりもあったが、全てのことをポジティブに捕らえて、何事も一生懸命に取り組んできた。

人間性を高めるためには、多くの人とコミュニケーションをとることを大切であり、ワイズダム・個人資質の研究のために国際大会などに積極的に参加し学ぶことが必要ではないか。奉仕のエネルギーの蓄積を心がけ、そのきっかけとして、家庭にあっては結婚記念日にはメネットに花束を贈るなどして、互いを認知し変化を察知していくこともその一端ではと考える。

続いては、阪神大震災の時期にキャピタルクラブの会長を務められた岡本ワイズ。なぜこれほど長くワイズ活動が続けられたかを自問すると、37年間のワイズ暦で物事に取り組むときに心構えを持つことの大切さを学び、またそこで学んだことを自身の人生・仕事に取り入れ活用していくことで今日の自分があることに気づく。すなわち仕事の進め方や人との付き合い方を学ばせてくれたのが自分にとってのワイズだったと思う。会長や重責ある立場

次は家庭環境的にY.M.C.A. 暦64年とおっしゃる奈良ワイズのお話。

Y.M.C.A.の少年部に属し活動、マルクスかぶれの文学青年期を経てワイズメンに。

ワイズの本来の活動目的は、絶対的な正解のない世の中で、世界をよりよい方向に持っていくための奉仕を目指すY.M.C.A.の、その活動をサポートすることである。ワイズメンはユーモアとゆとりを忘れずにこのY.M.C.A.を通しての奉仕活動をすることを忘れてはならないと考えている。



岡本尚男 兄(京都キャピタル)

三人の先輩ワイズメンのお話に共通することは、よき仲間との積極的なかわり、自己研鑽、加えてY.M.C.A.を通しての奉仕への積極的な取り組みの大切さである。メンバー数の減少やクラブ内での意思疎通の困難さなども、個々のワイズメンの心の持ちよう、いくらかでも克服していきけるのだとの力を得られた例会だった。わがプリンスクラブもよき先輩ワイズに学びますます活発な活動が出来ることを願うばかりだ。



式部左近



ワイズメンズクラブ国際協会 西日本区 第十三回 京都部部会が、2008年9月14日ウイングクラブのホストによりホテルグランドヴィア 京都に於いて、執り行われた。

我が、プリンスクラブから、メンバー16名、メンバー候補の荒木利彦君を迎え、総勢17名で、参加いたしました。登録受付14時、15時の開会で、プログラムは、三部構成になっており、第一部の式典では、各クラブの会長が、パナーを掲げ入場し、各方面から多数のゲストも入場された後、ウイングクラブの久後勝巳ワイズ・千晴メネットの司会進行でプログラムが進められ第一部が終了し、休憩の後第二部の「宴まで生テレビ」500の壁と題し討論会形式で行われた。司会をウイングクラブの武村ワイズ、発言者として、各クラブの会長が、壇上に上がりメンバー増強への意気込みあつた思いを語られた。

今期10名増員と答えられた、3クラブに続いて我がプリンスクラブ廣井会長は、9名増員で30名。昨年度からの目標を引き続き掲げた。クラブとしての適正人数は、30名だと思ふ、部長が555の実現に向けてと言っているのに500が、無理だとはいえない。メンバー全員が意識して、いっしょな出会いがあるかわからない、いつもポケットにY'sの名刺を忍ばせている。今期30名達成できると思っている。と力強い発言をされた。



第二部が終わり、第三部の宴が、ウイングクラブ今村会長の挨拶に始まり、京都YMC A西岡統括主事が食前感謝をされ京都部次期部長山中ワイズの乾杯の発声で始まりました。食事も進んだところでアピールタイムは、2010年に横浜で開催される国際大会のアピール、続いて第十二回西日本区大会のアピール...などが続き、参加ク

ラブの紹介では、各クラブの会長が、テーマソングのって仮装し入場、壇上では15秒でクラブの紹介、いろいろなコスプレ衣装がとも面白く中でもウイングクラブのアントニオ猪木の仮装は、ダントツで圧倒されました。順位は一位ウイング、二位トゥッピー、三位福知山、我がプリンスクラブ廣井会長のトランピングは入賞できませんでした。残り残念でした。じゃんけん大会があり我がクラブから決勝ステージまで三名進むも敢無く敗退。商品は、お食事券だったそうです、こりやまた残念でした。最後に藤田部長による谷村新司のテーマピロ変装で昂を全員で合唱。楽しいひと時が、終わりました。



「555実現に向けて」メンバー全員で取組み仲間を増やしていきましょう。

第12回京都部合同メネット会に参加して

メネット会長 廣井雅子

夏の暑さの残る、秋晴れの午後の一と時。参議院環境委員長である参議院議員福山哲郎氏による、「地球環境問題について」の講演が開催された。メネット会からは、岡西、金丸、西村、廣井の4名が参加した。

はじめに、「あなたのエコ性格診断」というシートを用いて、各自のエコに対する意識を確認した。イラストも交えたユニークなシートを皮切りに、終始和やかに、明快な講演内容が展開された。CO2排出量削減という国家による大きな目標は、どこかの偉い人が勝手に達成してくれることではない。大切なのは、日々の生活の中での積み重ねなのである。レジ袋を断ること。節電を心がけること。こうした些細な積み重ねこそが、地球環境に対して私たちがまずできることであり、環境に対する最も大きな貢献なのである。

この志は、私どもメネットの事業方針とも深くかかわっている。「メネット(妻、母、主婦)の視点で、女性メンとも協力し、お互いに助け合い、高めあい、より豊かなワイズライフを実現しましょう。」些細な心遣い、気づかいは、相互の協力関係には欠かせない潤滑油である。地球環境とも、こうした親しい付き合いが求められているのである。

メネットは今回、国内プロジェクトとして、発達障がいを持つ子どもに関わるリーダー育成研究会に支援を行う。発達障がいを持った子どもは、私どもにとって、支援すべき対象であり、理解すべき対象である。対象への理解もまた、情報収集や、実際彼らと交流することなど、積み重ねの結果から深まっていくことであると考え(これらプロジェクトなどの詳細や今期の活動については、西日本区ホームページをご覧ください、西日本区報巻末のメネット報に一度目を通し、内容を確認していただきたい。

たとえ私たちにできることが、些細なことであっても、それらを積み重ねた先には必ず結果が生まれる。今期は努力を怠らず、少しずつでも前に進み、結果を出すメネット会にしてゆこう、という決意を、さらに強固にしてくださった講演だった。



西堀和之

2006年9月6日付けのBF代表募集案内に応募して足掛け2年後の今年5月20日から帰途ニューヨークに立ち寄り6月12日まで、私はBF代表としてラテンアメリカ・カリビアン地区のウルグアイとブラジルを歴訪してきました。表題の背番号は私のBF代表としてのIDでITC、ATCやBFECへの連絡にはこの番号なくしては受け付けてもらえない重要な番号でした。与えられた紙面で全てをお話することは出来ませんが知見した限りのワイズメンズクラブの現状と活動、ブラジル区大会、YMCAなど私にとって未知の国々の仲間の活動を2、3回に分けて報告させてもらいます。

先ず訪問した国々の概況と日程を記し、話を進めたいと思います。

クラブの現状と活動

モンテビデオクラブはじめサンパウロで出会ったメンバーは平均年齢約70歳超の男性が中心。サンパウロや区大会で出会ったメンバーは70%以上が女性で容姿からは的確に判断できませんが概ね50、60歳代とお見受けしました。

サンパウロで聞いた話では女性会員が多いのは「男性は稼ぐ人、女性は使う人」と役割が分類され男性が稼いだお金で女性が奉仕活動をするという。女性会員の中には現役で大学の教壇や会社運営携わる人も多く伝聞の裏付けは取れなかったが、いずれにしても高齢化が一つの壁で若い会員の募集が難しいようでした。

いずれの国も経済発展途次であり失業率も年々低下しているとはいえまだ10%近くもあるため優秀な若い人はやはり甲斐のある職場と高収入を求め国外に流出していることと国にいても職場での熾烈な日々の競争は奉仕活動に時間を割くことを許さない状況とも耳にしました。(大学出の数が人口の2、3%と聞くので止むを得ないことも知れません。)

ワイズメンの子弟或いはYのリーダーをリクルートすることも検討しているようでしたが前述の事情と特にワイズメンの子弟は子供時代にワイズ活動に参加した結果、理念と活動にギャップを感じ距離を置いていたので改めて勧誘をしても中々説得が難しいという。

更にワイズメンズクラブや既存の奉仕クラブ以外に若い人達にとってはNPOやNGOの活動に魅力を感じているようでもありY中心の奉仕活動も見直す必要があるという考え方も耳にしました。

このため、既存のYのボランティアをワイズメンとして組織化し、新しいクラブを作る動きがウルグアイであり、一方ブラジルでは今以上の女性会員獲得を模索しクラブ

のチャーターや会員増強に力を入れていくようです。

例会は概ね月に一度ですが、二度三度と臨時に会合を開くこともあるようでした。例会場はYの会議室を利用する一方会員の自宅で開かれることもあり、会員の自宅で開催される集まりにはメネットが得意な料理やケーキ類を持ち寄るので出席率は高いようです。私の旅行が出發の1ヶ月前に決まった関係でクラブの

例会とは合致せず出席する機会はなかったのですが、モンテビデオでは到着した夕刻(午後8時)副会長宅に20名ほどの会員とその伴侶が召集され、サンパウロでは各区のメンバーが三々五々にメンバーの自宅に集まり食事やお茶をしながら親睦を深めることになりました。何れの国でもメンバーは主として男性は医者、弁護士、会計士、会社役員などで女性会員は職業婦人と社会的地位が高くワイズ談義に入る前に日本の政治経済はいうに及ばずお茶お花、建築や造園、タブーとなっている宗教についての質問攻めで、質問や私の返答が英語や現地の言葉に通訳される一瞬、珍しい料理やお菓子を口におぼるのがやっとな。お陰で最初の一週間ほどは体重が減り

ましたが、慣れてくると現地の言葉が少なからず判りだし通訳を介さずとも受け答えができるようになることと食事我慢することなく進み帰国の頃にはお腹がせり出してしまうのが難しくなってしまう。

両国のクラブの活動は主としてYがCDC (Community Development Center)を中心に経済的に恵まれぬ青少年育成

を目的とした地域社会への奉仕活動で無料の託児所、青少年の知的体力向上のためのスポーツやリクリエーション、職業訓練、成人の社会復帰のための教育などに財政的・物質的な支援が中心となっていました。具体的には、託児所では子供達へのおやつ、教材の提供、厨房・遊戯設備の整備、それぞれのYで開催されるバザーの応援・協賛、Yの借り上げ施設では家賃の一部負担、リクリエーション・野外キャンプなどの財政的援助などで、我々のクラブのY事業に見られる勤労奉仕的活動は会員の年齢的且つ構成要因のためか見受けられません。これはYの事業規模が大きくなり事業推進にアマチュアのワイズメンが携わるのではなく事業ごとに豊富な知識と

経験を持ったその道の専門家が推進せざるを得ない状況がYに生じたためワイズメンの直接的な事業参加が難しくなってきたことでクラブ数、人数の面でワイズメンはYの地域奉仕活動に焦点を当てた奉仕が中心となったようです。しかしこれはワイズメンズクラブ発足当時の活動の原点ではなかったのではないのでしょうか。最近でこそあまり聞かなくなりましたが「ワイズメンはYの無給職員である」という発想は両国では考えられません。

アメリカ合衆国におけるワイズメンズ運動が衰退したのはYMCAが財政的に自立しワイズメンの協力を得なくても事業運営が可能となったが故と以前誰かに聞いたことがありますが、帰国途次立寄ったニューヨークYのあるブランに置かれていた小冊子を見ると「皆様の寄付金で施設の子供たちを野外キャンプに参加させることが出来ました。今年には人数も増やす計画をしているので変わらぬご支援を期待します」との一文が目につきました。ワイズメンズ運動が衰退を始めた時期が1980年代と聞くと世の中の仕組みがグローバル化で大きく変革した時期にあたり、ワイズメンがその変化に対応できなかったのが原因ではないのでしょうか。もし、現在のウ

ルグアイやブラジルのワイズメンのような活動が当時でも可能であるとしたらYの地域奉仕活動に自分の支援協力ができYの発展と共にクラブの活動も活発になったのではと考えることができる一方で、アメリカカンドリーム実現のため若い人達が奉仕活動よりも自らの豊かな生活を求めた結果であるのかもしれない。上述以外にも、モンテビデオではカトリック神父が独力で貧困層の子弟を集め寺子屋のような施設を作りあげているので、他の奉仕クラブと協同して支援活動をしていました。(続く)

訪問国別概況と日程

1. ウルグアイ東方共和国

国土 : 日本の約50%
 首都 : モンテビデオ
 人口 : 約350万人
 民族 : スペイン・イタリア系が大半
 言語 : スペイン語
 宗教 : カトリック教が大多数 (信仰の自由あり)
 略史 : 1825年スペインより独立
 政体 : 立憲共和制

クラブ数 : 1クラブ (モンテビデオクラブ)
 会員数 : 22名
 設立 : 1940年
 YMCA : 6都市にあり、モンテビデオYMCAが1909年に設立された一番古いYMCA
 滞在期間 : 5月21日から5月25日
 宿泊先 : 旧市内にあるホテル
 訪問先 : モンテビデオクラブの非公式集会
 Yの施設3箇所とYと異なる支援先1箇所
 Yの総主事やCPと日本大使館文化担当官訪問



2. ブラジル連邦共和国

国土 : 日本の約23倍
 首都 : ブラジリア
 人口 : 約2億1千万人
 民族 : 欧州系 (55%)、混血 (38%)、
 その他 (アフリカ系東洋系等)
 言語 : ポルトガル語
 宗教 : カトリック教徒約90%
 略史 : 1822年ポルトガルより独立
 政体 : 連邦共和制 三権分立 (米国型)

クラブ数 : 4部に分かれ20クラブ (各部に5クラブ)
 会員数 : 331名
 設立 : 1957 [サンパウロ・セントロクラブ]
 YMCA : 7都市にあり、一番古いYMCAは1893年にリオデジャネイロに設立され、サンパウロYは1902年設立で3番目に古いY
 滞在期間 : 5月25日から6月8日まで
 宿泊先 : ホテルと会員宅でのホームステイ
 訪問先 : 歓迎会形式での部単位の非公式集会
 サンパウロYMCAの施設22箇所
 ブラジル区大会

3. ブラジル区大会

開催地 : サンパウロ北東部に位置するCompos de Jordao市のホテル PARQUE Hotel

参加者 : 120名

プログラム :

5月30日 午後8時15分 開会式並びに年次報告
 午後11時30分 フェローシップアワー
 31日 午前8時15分から午前11時30分
 「Ys活動に対する動機付け」
 「理想なボランティア活動について」
 など遊戯を交えての講演や「ユースのペルー訪問や活動報告」の発表
 講師 : RD、サンパウロYの総主事他、ユースリーダー
 午後1時30分 分科会とその報告
 午後3時30分 午前の部終了
 午後4時 地ビール工場見学 (有志)
 午後7時 クラブ表彰
 RDの交代式
 APEの所信表明
 BF Delegateの挨拶
 閉会式
 午後9時 終了
 6月1日 午前11時30分 昼食会場となるYに移動
 午後1時 昼食 (バーベキュー) 並行して
 Compos de Jordaoクラブの入会式
 ユースによるパフォーマンス
 午後4時 散会



(1) YMCAのリーダーとして何を学んだか。

私は昭和21年より62年間YMCAと関係しています。そこで学んだ事は、まず第一に優れた先輩との出会いがあったことです。その中にキリスト教の信仰も含まれると思いますし、情熱・熱意を持って物事に取り組みとはどういう事かを学びました。また、学ぶ事の目的をまなびました。広島YMCAの主事をしていた時に度々あの原爆ドームに外国人の平和の使節を案内しました。

しかし何のために何を訴え何を考えるために何を学ぶかということに、ほんとうに確信をもっているだろうか。YMCAはこのような目標を明確に支えてくれるところだと思っています。

次に私はYMCAを通して人間は平等であり、愛と友情で人と人が結び合い、同じ目的を持って働くことが何と素晴らしい事であるかをワークキャンプやプログラムに参加することによって学びました。ボランティアの精神というものでしょうか。働くことの喜びを学んだと思います。また、YMCAから楽しく遊ぶことを学びました。笑うことの楽しさ、ユーモアの精神。そして国際性を学んだと思います。国際性を体験を通して学ぶこと、これはYMCAが社会のなかで最も優れたプログラムだと思います。

そこには「ご存知の通り」安らかに眠ってください。過ちは再び繰り返しませぬから」という記念碑があります。それを小さな声で通訳をしていた時に私の背後から大きな声で飛んできました。「もっと大きな声で通訳しないか！」という声でした。

私は学ぶという事はこのように時にはつきりと大きな声で訴える事ができる実力を付ける事だと思いました。現代の若者は、多くの事を学んでいます。

勉強だけでは役に立ちません。熱意をもって前進することだと思っています。ワイズの国際議員としてはつきりと自分の考えを述べる事、国際事業主任で委員会の取りまとめ

をしていくことなどを通して、おおいに学ぶ事ができたと思います。私より英語の下手な人が堂々と自分たちの意見を述べているのです。負けるわけにはいきません。

(2) それを社会で如何に活用できたか。

誰でも社会に出て感じることは、如何に多くの価値観や身分や思想を持った人が多いか。社会的にも男女・国別・貧富・・・・の中で、基本的には人間は平等であり、愛し、助けあっているかなければならない存在である事をYMCAは教えてくれたと思います。

また、そのなかで社会の矛盾を乗り越えていく勇氣を与えられたと思います。自分中心的な利害で動くとする自分から、正義の為に犠牲になっても戦う事ができる自分へと変えられていく人間になる

ことがYMCAでリーダーになることだと思っています。またこれからの世界で大切なことは他の価値観を持った人の意見をよく聴いて、語り合い、より正しいことがわかれば自分を変えていける人間になることではないかと思っています。

(3) リーダーを育てる意義

国においても、地域社会においても、YMCA・ワイズメンズクラブなどの団体において、リーダーは必要です。リーダーによってその団体

最後に渡邊さんとの出会いを喜び、感謝をもって筆を置きたいと思えます。

の将来は決まるといってもよいかも知れませんが、リーダーの最も大切な素質は次の世代を見通す先見性ではないかと思えます。世の中はどう変わっていくのか、どう変えなければならぬかという確信を持った人ということに今何をすべきかを具体的に努力することが出来る人ということだと思えます。これは若さとは関係ありません。若い人が次の世代を担うとよく言われますが、必ずしもそうとは限りません。高齢者であっても世の中を指導している人は多数いると思います。リーダーに必要なのは自分をより正しいこと、あるべき姿にかえることの出来る能力を持った人、広い視野を持った人、人々に仕えることの大切さを身につけている人ではないでしょうか。

私もは幸にも、YMCAやワイズメンズに属してクラブ作りをしたり、会員を募集したり、YMCAに奉仕したとしてつまずいたり、失望したりすることがあります。しかし続けているとキラリ・キラリと光る人に出会う事があります。その人がリーダーです。

私もはそのリーダーとの出会いを喜び、みんなが助け合って将来のワイズメンを創りだして行きたいと思えます。

1947年より今までYMCAと関わる。

1953年 福岡大学卒業 1948年 学Y創設

1952-53年 インドで行われたWCC(世界教会大会)に日本代表の一人として参加。

1953年 YMCA勤務(同盟研修所 及び 広島YMCA)

1958年 同志社神学部卒業(正教師)

1958年 活水女子(短期)大学宗教主任

1966年 福岡へ帰り開拓伝道及び自営会社設立

1981年 福岡中央ワイズメンズクラブチャーターメンバーとして入会

1991年 日本区理事就任(その後国際議員・アジア国際事業主任などを勤める)

渡邊公生

「なべちゃん、俺タバコやめたで」とめいぷるワイズメソングクラブの戸田ワイズが突然言われた。「うそお」と思わず私の口から出ました。なぜなら、ビールとたばこをこよなく愛していた戸田さんがとてもたばこをやめるとは思わなかったからです。かれが京都部長時代に環境問題を中瀬前部長から受け継ぎ、部会においても場内禁煙（場外猛煙？）で開催された。形に見えない環境問題を中瀬ワイズが口火を切り、戸田部長がそれを引き継いだ形で取り組まれました。そんなときでも

「なべちゃんごめん煙草は止められへんわ」と口からはなさなかつた煙草を彼が辞めるとはおそらく体調でも崩したかとおもい、その理由を聞く、「孫の健康を阻害する」という理由で家族からきつく言われたようでした。恐るべし孫の力！
嫌煙権が広がり、国連でも煙草の副流煙が周囲の人の健康を阻害すると明言している時代、なかなかやめられない人も多し中、孫の一字が禁煙へと彼を導いた。

さる9月14日に開催された京都部会で、周囲の人にその話をしたところ、みんな目を丸くして「うそお」と私とおなじ反応を見せました。なにわともあれ、また一人たばこをやめる人が増えたことは、健康環境ということではいいことと考える。ちなみに4200種類の化学物質が含まれており、そのうちの200種類が有害化学物質と解っています。身近な環境もんだにあなたはどう取り組みますか？



サバエキャンプ場開設60周年

北野功治

20日の夕方5時半過ぎにサバエキャンプに行く、すでに森ワイズはじめ皆さんが元気鍋の仕込やビールサーバの動作確認をして下さっていました。前夜祭の交流夕食会での夕食は会費からまかなわれて、各クラブやリーダーOBの屋台から自由に食べるのができます。ビールとソフトドリンクは、ドリンクチケットによる販売です。プリンスクラブが屋台で提供する元気鍋は、私が森ワイズと知り合いになった天体観測会で、星を見ながら皆が持ち寄った具材をなべに入れておいしく食べたのが由来です。たくさのおいしい鍋が完成しました。

6時半過ぎにはウエルクラブの松田ワイズの開会宣言で交流夕食会が開始しました。ウエルクラブは炭火焼鳥での写真機もお借りしました。ありがとうございます。みやびクラブ・ウイングクラブの屋台もおいしかったです。元気鍋も次々に具材を足して最終的に6杯ぐらい作ることになりました。集まった方々が思い思いに語り合い、様々に交流を深めることができました。

夕食会が終わるのが遅くなり、キャンプファイヤーは予定より1時間近く遅れて浜辺で行なわれました。夕食会の時には晴れていた空が曇り空へと変ってしまいましたが、キャンプファイヤーの時間はまだ木星や月が見えていたので行かなかつた人は望遠鏡で見ることができました。しかしプラネタリウムの時にはすっかり曇ってしまった。その後の天体観測はできずに終わりました。解散後はキャビンでリーダーOBとも語らい、さらに交流を深めることができました。

特に印象に残ったのは、浜辺では困いまでして保護が訴えられていたハマゴウが、敷地内にはたくさん生えているとのことでした。朝食を頂いている最中、バケツをひっくり返したような豪雨が降り、すごかったです。その後記念の会が盛大に執り行われ60周年記念事業「(仮称)会員の森」計画も発表されたことと、思いますが、勝手ながら先に失礼してしまつたため、実際のような書きことができませぬ。参加していただきありがとうございました。

京都YMCAからのお知らせ

1. 京都YMCA国際協力キャンペーン

今年も10月1日～11月末の期間を京都YMCA国際協力キャンペーンとして国際協力募金を行います。
国際協力募金は皆様方の暖かなお志をもとに、日本YMCA同盟を通して、開発途上国の人たちや女性の社会参加自立への援助や、明日の国際社会を支える指導者養成のために使用いたします。
また、自然災害被災者救援などの緊急支援の為に、若者が異文化に触れ、平和や貧困について考えてもらえるスタディーツアー実施を支える為に使われます。
キャンペーン期間 10月1日～11月30日、街頭募金を11月2日(日)

2. ウィンタープログラム受付開始

今年も最高の冬をYMCAですごしませんか。
スキーキャンプ、デイキャンプ、鉄棒とびばこが好きになる教室を開きます。
<スキーキャンプ>

受付 ◎会員優先 11月4日(火)～5日(水) 午前10時～午後6時
お電話にて受け付けます。電話(075)231-4388
期間中Eメール・FAXでも受け付けます。(24時間)
E-mail skicamp@kyotoymca.or.jp
FAX (075) 251-0970
http://www.kyotoymca.or.jp

一般の方からはお電話での受付開始: 11月6日(木) 午前10時

<デイキャンプ/鉄棒・とびばこが好きになる教室> 会員優先受付

受付 ◎ 会 員 11月7日(金) 午前10時より
◎ 会 員・一般 11月7日(金) 午後2時より
お申込み・お問い合わせは ウェルネスセンター 三条 6階
電話 (075) 255-4708 まで

3. 英会話 秋期募集のお知らせ 「秋期コース」 10月開講 只今、生徒募集中

☆初級から上級まで自分の英語力にあったレベルで、とにかく話せるようになりたい方へ

ご興味のある方がいらっしゃいましたら、是非お勧めください。

●中学生英会話・高校生英会話 後期編入生募集

後期コース スケジュール

中学生英会話 2008年10月9日(木)～2009年3月13日(金)

高校生英会話 2008年10月9日(木)～2009年3月13日(金)

●成人英会話 秋期新入生募集 秋期コース

○スタンダードコース 2008年10月6日(月)～2009年3月23日(月)

○スキルアップコース 2008年10月17日(金)～2009年3月6日(金)

○アテンド通訳基礎コース 2008年10月18日(土)～2009年3月14日(土)

○プライベート&セミプライベートレッスン 随時受付中

お問い合わせ・お申込みは 京都YMCA ENGLISH SCHOOL

(075)255-3287 http://www.kyotoymca.or.jp/language/

4. リトリートセンターオータムフェスタ

森の中で美味しいお店がお待ちしています。都会の雑踏を離れて、ご家族やお友達と秋の自然をお楽しみください。
子どもも大人も楽しめるゲームや催しもあります。

日時 11月16日(日)

場所 京都YMCAリトリートセンター

電話(0774)24-3838

チケットのお求め・お問い合わせは 京都YMCA

電話(075)231-4388まで

5. ボランティアセミナーのご案内

1. ちょこっと ボランティア

心肺蘇生法、AED(自動体外式除細動器)講習会ー

AEDによる心臓突然死をふせぐー

中京消防署専門官による心肺停止患者さんへの蘇生法及びAEDの操作法の学習。

事前申込の方には消防署より普通救命講習修了書が交付されます。

日時 2008年10月11日(土) 午後2時～5時

場所 京都YMCA (三条柳馬場角)

参加費 お一人 300円 定員30名(先着順)

2. がん患者さんとそのご家族へ 第21回 苦しみ、悩み、不安を共有

しませんか。

この会は患者さんとそのご家族が抱えている苦しみや悩みについて、患者さん同士、そのご家族同士が話し合い、がんとうまく付き合うための情報交換の場です。

日時 2008年10月18日 午後7時～9時

10月の予定

1日(水) 第一例会(合同例会) 19:00～21:00

リーガロイヤルホテル京都

5日(日) ワイズポテト販売

15日(水) 第二例会(通常例会) 19:00～21:00

グランドプリンスホテル京都

11月の予定

2日 YMCA国際協力募金・ワイズデー

3日 専門学校学園祭

5日(水) 第一例会(100人例会) 19:00～21:00

グランドプリンスホテル京都

19日(水) 第二例会(通常例会) 19:00～21:00

グランドプリンスホテル京都

16日 リトセンオータムフェスタ

役員会報告

審議事項

*入会金を¥10,000とする。

承認

ハッピーアニバーサリー



10日 村山 正治君/邦江さん

18日 小野 敏明君/瑞穂さん

ハッピーバースデー



19日 西村諒子コメット

20日 毛利太紀コネット

24日 森 亮彦マゴメット

30日 金丸美貴メネット

